

災害ボランティアについて

質問(増淵寛江議員)本市における災害ボランティアの活動状況について伺います。

答弁(保健福祉部長)市では、地震発生直後に災害対策本部を設置し、翌日に市福祉センターに社会福祉協議会が中心となり、災害ボランティアセンターを開設し、情報収集に当たりました。地震発生から比較的短期間で設置された要因としては、市及び那須野ヶ原青年会議所、市ボランティア連絡協議会のご理解、ご協力に加え、社協では事前に

災害ボランティア講座や研修会を実施していたことが早期設置につながったものと思っております。本部長を市社協事務局長として、副本部長を民生委員児童委員長として、那須野ヶ原青年会議所理事長とし、班編成は総務班、ボランティア班、ニーズ班、マッチング班の計4班でスタートいたしました。ボランティアの受付については、まず登録申し込みをお願いし、余震がおさまってから活動を開始することとし、その間にニーズの

募集を行い、必要な活動内容を把握し、三月十六日から活動を開始いたしました。

当初は、ひとり暮らし高齢者、高齢者夫婦世帯を中心に家具の後片づけを行いました。また、住民からの主なニーズは、被災家屋における後片づけ(ガラス、かわら、扉、がれき類の撤去、搬出、家具の移動、災害ごみの運搬等)でありました。並行して福島県等からの避難者の支援も行い、避難所における食事の調理・配せん、子供の遊び相手、健康体操などを行いました。

今回の災害では、長期間にわたりますさまざまな方々から支援をいただき、混乱の中を何とか役割を果たすことができたと考えております。



塀のがれきを片付けるボランティアの皆さん



開催時期が延期となった街かど美術館

質問(小野寺尚武議員)平成二十三年度予算における事業費の執行見直しについて伺います。

答弁(市長)今後の本格的な災害復旧、復興に向けた事業執行につきましても、災害復興計画に基づき推進することとしておりますが、その財源の確保に当たりましては一般行政経費を最小限に抑制し、先送りできる事業は当面執行を見合わせることでしております。

特に学校給食費の無料化を見直し、児童生徒一人当たり月額

二千円の助成に変更し、減額分を学校校舎の修繕費等に充当することといたしました。

また、各種施策推進事業やイベントの事業につきましても、大田原市さくら祭や大田原屋台まつり、天狗王国春まつり、さらには全日本アウトドア綱引選手権大会やスポーツ拠点づくり全国青少年アウトドア綱引競技大会を中止したほか、大田原市街かど美術館についてもメイ

ンギャラリーが被災したため延期としました。今後の各種施策

推進事業やイベントの事業につきましても、開催時期や開催場所、開催内容等を勘案し、休止や延期、大幅な縮小も視野に入れて検討しております。

今後、災害復興計画に基づき被災からの早期復旧、復興対策を円滑に実施するためには、復興財源の確保を図る必要がありますので、国、県の動向を注視し、災害復旧に係る国庫の補助金の確保や災害復旧事業債の発行を初めとし、財政調整基金の運用など復興財源の確保を積極的に進めてまいりたいと考えております。

予算執行見直しの状況